

豊かで 伸びやかに そしてたくましく



スカウト みやぎ

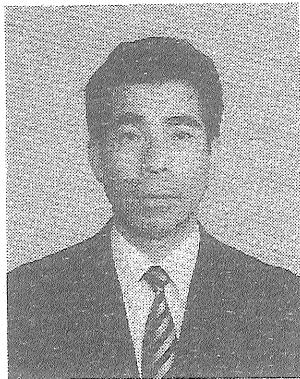
NO. 3

発行 日本ボーイスカウト宮城県連盟
発行日 平成16年2月29日発行

年頭のご挨拶

日本ボーイスカウト宮城県連盟

理事長 千田好男



平成16年の年頭にあたり、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

皆様には、ご健勝にて新年を迎えたこととお慶び申し上げます。

平素より当県連

盟の運営に対しまして格別のご指導とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、昨年は7月末に発生いたしました宮城県連続地震に県連といたしまして、災害救援ボランティアを緊急に募集し、被災地町のボランティアセンターを通じて支援活動を行い、避難者の見守り・支援物資・食糧の配給・町役場との連絡調整などに奉仕し、更に、募金活動も行い義援金は浅野連盟長から日赤宮城県支部を通じ被災者に贈らせていただきました。

幸いにも、スカウト仲間の家庭には大きな被害がなかったことが報告されておりますが、この災害を機に我々ボーイスカウトが被災地へ支援できることは何なのか、野営行事委員会がそのマニュアル作りに取り組んでおります。

一方、各団、各地区におきましては、さまざまな名称のキャンプ大会を開催され、スカウト達にとって記念すべき年であったことと思います。

また、石川県能登半島で開催された「第9回日本アグーナリー」には県連盟から22名のスカウト、リーダーを派遣いたしました。親元を離れキャンプ生活を通して体験したことは生涯忘れられない良い思い出となり障害スカウトも健常スカウトも皆同じという体感があったと思います。

今年は8月2日から8月7日まで関東ブロック1都7県を会場に「第6回ベンチャースカウト大会」が開催されます。当県連からは60名のベンチャースカウトが参加の予定ですが、高度なレベルのプログラムに挑戦できる新しい大会と位置づけられており、スカウト達が思う存分若いエネルギーを發揮し、未来への道を切り開いてもらいたいものです。

今年も「より良いスカウティングを、より多くの青少年に」をスローガンに活動を進めて参りますのでよろしくご協力ご支援をお願い申し上げます。

皆様方のご健勝とますますのご発展を祈念し新春のご挨拶といたします。

ベンチャー富士章 3人に授与

県連プログラム委員長 大久保 晃男

11月30日県連理事会開催時、ベンチャー富士章の授与式が行われました。

石巻第6団の五十嵐麻衣さんは第20回世界スカウトジャンボリー日本派遣団のワッペンのデザインをし、大会参加中会場のスカウ



ベンチャー富士章スカウトに栄光あれ！

トの顔をスケッチするというプロジェクトに挑戦しました。

泉第1団の佐藤謙太君は隊長の指導を受けながら、学校の授業で体験した「草木染め」をプロジェクトとして、継続して取組み実験的解明までの研究を行いアワードを修得しました。

同じく泉第1団の齊藤亨平君は、在学中「仮面ライダーショー」を行う会社でアルバイトをしたこともあり、ステージでショーにすることを目標に、アクションや台本の練習をプロジェクトに纏め上げました。

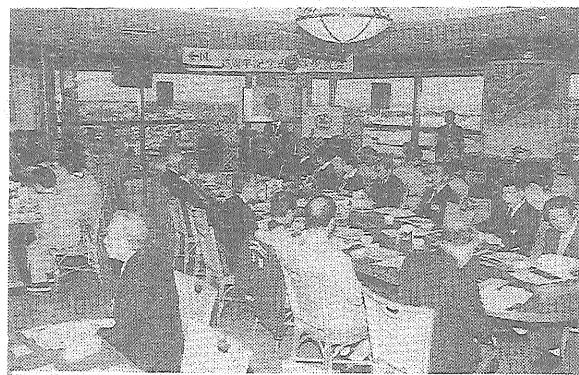
以上の3名は、これらの努力の積み重ねによって富士章課目を完修しました。

【仙台地区協議会創立35周年記念式典】盛大に開催

ボーイスカウト仙台地区協議会の創立35周年記念式典が10月26日（日）仙台市内のサンバサンバを会場として県連盟より郷家副連盟長、千田理事長、仙台市こども企画課桜田正課長、ガールスカウト宮城県支部長、ガールスカウト仙台地区協議会長、県連盟理事、各団関係者など70余名が出席し盛大に開催された。

式典は野中協議会長より仙台地区協議会創立35周年式典開催の喜びと、現加盟員の精励および諸先輩の今までの活躍に対する感謝の言葉があり、35周年記念事業が2月のB P祭、8月の「花山の自然に抱かれて」一生きる力を育もう—をテーマとした野営大会と、この度の記念式典の3部構成であることなどの式辞で開始された。

次に浅野宮城県連盟長からの式典開催のお祝いとボーイスカウト運動に対する社会的使命についてのメッセージが野中協議会長によって代読された。



盛大な仙台地区創立35周年記念式典会場

続いて、仙台地区活動の支援団体に対し末日聖徒イエス・キリスト協会仙台ステークス様外3団体、各団からの推薦による永年奉仕者、第13回ジャンボリー、第9回日本アグーナリー、第7回仙台地区キャンポリーの奉仕者などに感謝状が贈られて式典を終了した。

更に引き続き、県連盟安達相談役の乾杯の音頭によって始まった祝賀会では、地上20階の会場からの夜景を堪能し乍ら賑やかに懇談して楽しい一時を過ごし、次の40周年に向け再び歩み出すことを胸に散会した。

北上川一斉清掃活動に奉仕

石巻地区協議会

悠久の流れ北上川、流域の人々に数多くの恩恵を与え、母なる川として親しまれている北上川の豊かな自然を後世に残そうと、流域各地域で河川愛護活動が行われています。

ボーイスカウト石巻地区も、毎年9月に行われている「北上川フェア」の協賛団体として、前年よりこの活動に参加してきました。

本年も、11月16日（日）午前7時より1時間、石巻市内3ヶ団よりスカウト・リーダー・保護者60名が参加し、担当の大橋地区で実施しました。

大橋地区はボーイスカウトの他、「北上川

フェア」協賛4団体と大橋地区町内会が担当し、開北橋から下流1kmの、川開き祭り花火会場となるところを諸団体を含め総勢80名で実施しました。

開始にあたり、土井石巻市長より感謝の言葉を頂き、特に多くの人が奉仕に出動したボーイスカウトには感慨を新たにされたようでした。

前夜の雨も上がり比較的暖かかったので、作業も予定より早めに終わりトラック1台分のごみを分類回収して、各団毎に散会しました。

蘇った幻の地区ラリー

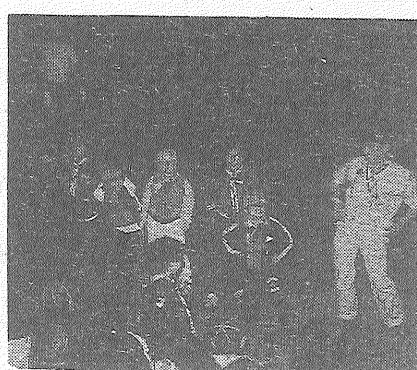
県北地区協議会

8月の台風のため急遽中止となつて幻に終わってしまった県北地区ラリーは10月12日から13日まで古川・鳴子・高清水・迫の

4個団が参加して鬼首を会場に楽しいキャンプを開催し無事終了した。

（日刊）大崎タイムス

平成15年10月21日（火）掲載



大営火の周りで踊りを楽しむ参加者たち

150人が交流深める 県北地区協鬼首で体験活動

富城県北部のボーイスカウト四団である「ボイスカウト県北地区協議会」（会長・布施幸之）（追第一回委員長）主催の「県北地区ラリー」がこのほど、鳴子町鬼首地区で開かれ、各団の子どもたちが体験活動を通じて交流を深めた。当初は8月に予定していたが、台風の影響で干

月開催となった。今年は

自然の力と自然の恵を体験

しよう」をテーマに掲げ、古川、鳴子、高清水、迫の各第一回のビーチ長と小学一年、カブスベースカウト（同五年から中学二年）合わせて約百五十五人とそ

水、迫の各第一回のビーチ長と小学一年、カブス

ベースカウト（幼稚園年

度開かれ、各団の子どもたちが体験活動を通じて交流を深めた。

「県北地区ラリー」がこのほど、鳴子町鬼首地区で開かれ、各団の子どもたちが体験活動を通じて交流を深めた。

当初は8月に予定して

いたが、台風の影響で干

月開催となりた。今年は

自然の力と自然の恵を体験

しよう」をテーマに掲げ、古川、鳴子、高清水、迫の各第一回のビーチ長と小学一年、カブス

ベースカウト（幼稚園年

度開かれ、各団の子どもたちが体験活動を通じて交流を深めた。

当初は8月に予定して

いたが、台風の影響で干

月開催となりた。今年は

自然の力と自然の

2003 SENDAI 光のページェント「サンタパレード」参加

仙台地区広報委員長 柿沼富雄

仙台市「光のページェント実行委員会」主催によるサンタパレードが12月23日仙台市内の定禅寺通りでボーイスカウト仙台協議会がビーバー、カブ、ボーイ、指導者、父兄など家族まで約250名が参加しました。

仙台の年末の風物詩として近年脚光を浴びてきているサンタパレードにボーイスカウトの活動を多くの市民の皆さんに対し、広報活動のまたとない機会としてとらえ、仙台地区協議会ではカブ・ビーバー部門を中心として参加することとなりました。

当日は、141ビルに用意された控室で真っ赤なサンタの服に着替え、雑踏の中を会場へと向かい、17時30分のカウントダウンで点灯されたライトによる観客の大きなどよめきの中を、ボーイ隊が持する隊旗集団に続き陸上自衛隊の演奏する音楽に合わせてボーイスカウトのクリスマスカードを配りながら元気に歩き始めました。

更にボーイ隊は、参加した他の団体の先頭でのプラカード奉仕をするなどして、観客か

らも好評を得て、第1回目と第2回目のパレードを終了し、全員が喜びと感激の裡に無事解散しました。

企画・実行委員会、指導者の方々の大変なご苦労も報われたのではないかと思っています。

〈参加したスカウトの声〉

- ・サンタの服をお父さんやお母さんと一緒に着れたのが嬉しかった。
- ・見物していた知らない人達と握手をしたり、「メリークリスマス」と声を掛けたのが一番嬉しかった。
- ・何百人というスカウトの仲間がサンタクロースになって手をつないで歩いたのがすごいと思った。
- ・たくさんの見物客の中を歩いたのが良かった。来年も歩きたいです。
- ・星空を歩いているみたいで面白かったです。
- ・緊張して上手く行進できなかった。

(プラカード奉仕ボーイスカウト)



仙台第27回発団45周年記念行事

『親子親睦野外料理コンテスト』開催される

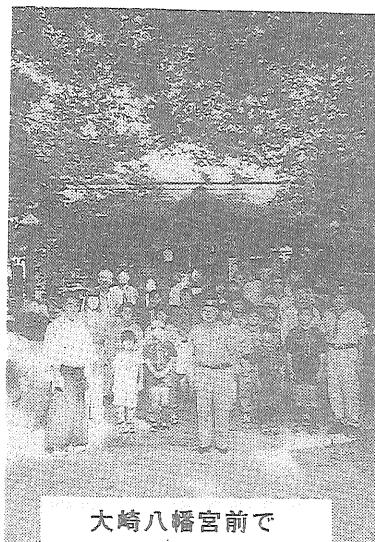
仙台第27回 副団委員長 大久保 見男

10月26日（日）の午前、修復工事も最終段階に入った大崎八幡宮の仮本殿にスカウト、指導者、団委員、保護者が参殿し発団45周年記念の正式参拝の後、八幡宮公園（スカウト広場）に移り、宮司の小野目育成会長を迎えて発団記念式典を行いました。

公園に並べられたコンクリートのU字溝をカマドにして火をおこし、各家庭で下ごしらえした料理をアルミフォイルで包んで持参したもの、親子で一齊にカマドに乗せたり、火の中に入れたりして、焼く作業を行いました。

この『野外行事料理コンテスト』は、アルミフォイルの包み焼きコンテストなので、アルミフォイルに包んで持ってきていたために出来上がるまでは中身については誰にも分からぬ状態で始められました。焼き上がりに近づくにつれ、周囲には美味しい匂いが立ち

こめ始めて、スカウト達は出来上がりに胸を膨らませ、焼き上がってから完成の喜びを親子で味わっていました。



大崎八幡宮前で

コンテストの試食会を行い、表彰に移り、表彰メダルを齊藤団委員長と大久保副団委員長より一人一人の首に掛けて貰い、カレーパーティーの座に着きました。

この日は好天に恵まれ、発団45周年記念式典と記念行事を親子で楽しく過ごした一日を無事終了しました。

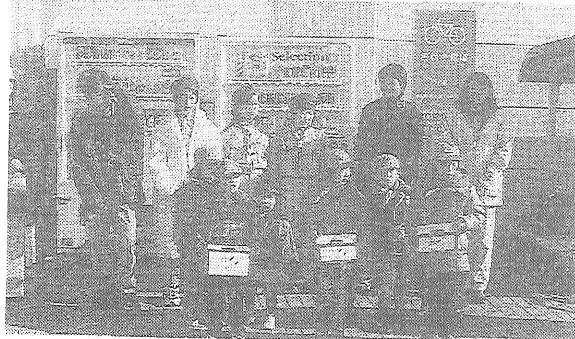
募金奉仕活動をするスカウト

「さいまつたすけあいうんどうにごきょうりょくおねがいしま～す」ぎこちないながらも元気な声が響く。「偉いね、頑張ってね」と買い物に来たお客様が募金して下さる。まだ小さなビーバー達の一生懸命な姿を見ると、皆さんは快く協力して下さるようだ。

カブ・ボーイと大きくなってくると恥ずかしがって声も小さくなりがちだが、それでも募金活動・社会奉仕はボーイスカウト活動の大きな柱の一つだと自覚して頑張っている様子を見ると、とてもうれしく思う。

募金していただいた時のスカウト達の嬉しそうな笑顔、そしてお小遣いだって多くは貢

吉川第1回ビーバー隊長 小林 香
っていないだろうに、自分の財布を取り出して「今日のジュース代、おやつ代」といいながら募金箱にお金を入れているスカウト。何てよい子達だと心が温かくなかった。募金と一緒に子供達の気持ちも届くだろうなと思った。



歳末助け合い募金にご協力下さ～い

地域の“中田まつり”へ参加

仙台28団団委員長 今野利男

地域住民の交流と親睦を深め、生涯学習成果の発表の場として今年も、中田市民センター及び中田小学校の体育館や校庭内を会場として第28回中田まつりが10月25～26日の土・日の両日に亘って開催され、仙台28団も昨年同様中田市民センター駐車場内縁日コーナーにテント張りのエリアで参加をしました。

当団の参加は26日の1日だけでしたが、簡単な物づくりやゲームなど身近な物を利用し、楽しく愉快に物つくりを学び、喜びを体験することを主体とし、同時にスカウトの募集に向けての広報も行いました。

また、当日はスカウトの各家庭から物品のご提供とお母さんたちのご奉仕によってバザーコーナーを開設して貴重な団活動費の財源

確保に努めるなどして、親子ともども楽しく“中田まつり”的一日を過ごしました。

当団では、この“中田まつり”的にも昨年に続き「なかだ篝火コンサートー胡弓の夕べ」での篝火管理などへ協力するなど、地域のイベントに積極的に参加しております。



中田まつり参加のスカウト

プロジェクト「おしおきキャンプ」

白石第1団ベンチャー隊 浅野宏一

11月15～16日にプロジェクト「おしおきキャンプ」を行いました。このプロジェクトの目的ならびに目標は冬の寒さに耐え、次回に計画する予定の雪中キャンプのための強い精神力と体力、ベンチャースカウトの活動に必要な技術を身につけることです。

場所は旧白石蔵王分校で、白石中央公民館から個人装備とテントなど必要な隊装備を全て背負い、約10キロの山道を歩きました。

歩いている途中は足、肩、腰が痛くなり、何度も嫌になりましたが、定刻通りに到着した瞬間は最高でした。

キャンプ地に着いてからは、先輩の知恵を借りつつ自然の物を利用してタープを作るな



目的地を目指して遙かな道を
どボーイでは経験しなかったことが出来て大変充実したキャンプでした。

もちろん帰りも来る時と同じ道を同じ状態で歩きました。とても厳しく疲れましたが、少し成長出来たものと思っています。

おじいちゃん、おばあちゃん元気でね

仙台第45団

12月13日（土）青葉区芋沢にある特別養護老人ホーム洛風苑で、カブ隊とボーイ隊を中心にして家族も加わり約70名のおじいちゃん、おばあちゃんを前にクリスマスの歌やハンドベルなどを披露、おじいちゃん、おばあちゃんも手拍子を取りながら「聖しこの夜」を歌ったり、「赤とんぼ」「ふるさと」などの童謡を歌うなど楽しい時間となった。

スカウト一人一人が、おじいちゃん、おばあちゃんに「お元気で」と声をかけ、握手をしたりして交流、おじいちゃん、おばあちゃんも笑顔で応えていた。

仙台45団の洛風苑訪問は5年以上続いており、毎年12月の恒例行事となっている。



おじいちゃん達と交流するスカウトたち

ネイチャーゲームと木工に挑戦

石巻第2団カブ隊長 菊池廉博

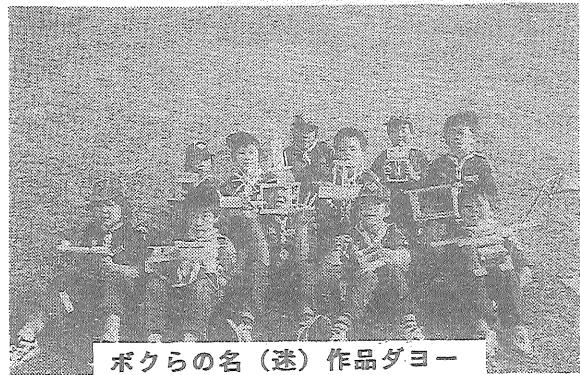
新隊員を迎えた秋の合宿キャンプを10月25～26日の1泊2日で、テーマは「〇組あつまれ！」とした。

初日は農業体験として“さつまいも掘り”を体験し、夜は木工教室として、各自木片を使って、自由な発想で釘（手？）を打ちながら工作に挑戦した。

作ったものが気に入らず何回も作り直したり、材料を3人分も使った正体不明（本人曰く…怪獣）の物、お墓のようなタワーなどスカウトの個性あふれる作品が出来上がった。

作品は最終日には、各自が発表して“優秀賞”“アイデア賞”などが贈られたが、発表の仕方も審査の対象としたので、“口”で工作をしたスカウトもいて賑やかな表彰式であった。

二日目は町民憩いの森に場所を移し、ハイキングをしながらネイチャーゲームを楽しんだ。まず静かな場所で「サウンドマップ」を、



ボクらの名（迷）作品ダヨー

次に水辺の広場で「動物ヒントリレー」と秋をテーマにした「フィールドビンゴ」を、最後の階段では、周辺に置かれた“自然でない物”を探す「カモフラージュ」の4つのゲームに挑戦した。

ネイチャーゲームには勝敗はないが、ゲームの後で行う「解説」が大切で、ゲームを行うことによって如何に自然への気づきを養うかがゲームのポイントである。

ゲーム終了後、全員に隊長より「環境保護バッチ」が授与された。

スカウトは感謝の心を持つ

岩沼第1団

岩沼第1団では、宮城県神社スカウト協議会のガールスカウト宮城18団、仙台27団の友団の皆さんとともに12月7日に竹駒神社の境内で恒例の餅つきを行い、自然の恵みに感謝しながら、お母さんたちのご奉仕によるあんこ餅やお雑煮餅をいただきました。

河北新報 平成15年12月16日掲載

岩沼市と亘理郡の子孫もたちでつくるボーリスカウト岩沼第1団と、ガールズカウト県第18団は先日、岩沼市の竹駒神社境内で、恒例のもちつき大会を行った。享真二年交流のある仙台第27団の団員も会流し、計約30人が参加。一人ずつ仲間が掛け声を合わせながら、張り切ってきぬを振り下ろした。境内を訪れた参拝客も、子どもたち



の元気な姿を見守っていました。
お腹に迷走癌、つまり大腸の悪性腫瘍がこっそりと
膨ら張っていました。

△もちつき交流△

継続は力なり

仙台35回

毎月定期的に綺麗なカラー写真入りの広報誌を発行している仙台35団です。

宮城県連盟内では、このような方法で広報活動に取り組んでいる唯一の団（隊）ではないかと思い、その熱意とご努力に敬意を表しながらご紹介いたします。



新賀
新
平成十六年元日

編集後記 あけましておめでとうございます

第3号の編集に際し、沢山の原稿を戴きご協力を感謝いたします。
間もなく平成16年度の登録が始まります。ボイスカウトの活動を地域の行政機関や学校を始め、地域の方々に各団・各地区の活動状況の理解を深めて戴き、組織拡張のための一手段として本紙が少しでも役立てばと念じております。毎号、活発に活動をしている地区・団のみの掲載に偏らないよう配慮をしておりますが、活動が停滞している団や、活動をしている団であっても広報活動が軌道にのらない団からの寄稿をお願いいたします。

発行 日本ボーイスカウト

宮城県連盟

■ 編集 宮城県連盟広報委員会

■ T981-0915

仙台市青葉区通町1-6-9

宮城県通町分庁舎内

TEL/FAX

0 2 2 - 2 3 4 - 2 3 5 9